

豊かな長寿社会を実現するため

# いたや！

No.57

発行 2022.1



一般社団法人 茨城県福祉サービス振興会情報紙

[発行人] 鈴木一良 [編集・発行所] (一社) 茨城県福祉サービス振興会

[編集委員] 小室博俊、安藤真理子、柳下文江、菊池巧

〒310-0851 茨城県水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館5階

TEL.029-241-6939 FAX.029-241-6799

## ごあいさつ



一般社団法人  
茨城県福祉サービス振興会  
会長 鈴木 一良

明けましておめでたございます。お健やかに令和4年的新春をお迎えになられたことをお喜び申し上げます。私ども一般社団法人茨城県福祉サービス振興会に対し、日頃よりご理解とご支援を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年は年初来の新型コロナウイルス感染拡大により、第2回、第3回の緊急事態宣言が発出され、ワクチン接種を始め各界各層挙げての徹底した感染防止策が功を奏し、10月以降驚異的な終息傾向が続いている。しかし、感染者は170万人を超えて、第2四半期のGDPはマイナスを計上するなど、産業界や国民の日常生活にも大きな影響が出ています。諸外国の感染が拡大する中、我が国においても第6波襲来に備えて対策が取られています。

このような状況の中、本振興会は主事業である講座・



茨城県知事 大井川 和彦

新年あけましておめでとうございます。

一般社団法人茨城県福祉サービス振興会の皆様におかれましては、新春を健やかにお迎えのこととお慶び申しあげます。

新型コロナウイルス感染症の影響につきましては、依然として予断を許さない状況が続いておりますが、皆様には、社会的に欠かすことのできない福祉・介護関連事業サービスの提供について、感染防止対策を徹底した上で推進いただいておりまことに深く感謝申し上げます。

研修事業が立ち上げに手間取りましたが、特に「一zones」の研修等を中心して、NOOMによるオンライン研修として下期から開始したところです。何卒多くのご利用・ご活用をお願い申し上げます。また、要介護認定調査業務については、茨城県から指定市町村事務受託法人の指定を受け、関係市町村担当者の皆様からのご理解のもと順調に受託事業を進めることができておりますので、引き続きましてのご支援を賜りまますよろしくお願い申し上げます。

人材確保につきましては、福祉介護業界も同様に慢性的な人材不足が続いているのですが、岸田首相が介護業界への賃上げを明言しているので、幾分かは緩和するのではないかと期待をしております。

原油価格の高騰による各産業界への影響が懸念されているところですが、本年度も茨城県はじめ関係団体と連携を図りながら業界発展に寄与してまいりたいと考えております。

会員の皆様には、厳しい業界環境ではありますが、本振興会の事業運営にご支援・ご協力を願い申し上げますと共に、より一層地域に密着した企業として活躍されませことをご祈念申し上げ、新年のごあいさつをいたします。

県いたしましては、引き続き県民の皆様の命と健康、そして暮らしを守ることを最優先に、医療提供体制をしっかりと確保するとともに、感染拡大防止に万全を期しながら、コロナ禍で落ち込んだ県内経済の早期回復に向け、先手先手で取り組んでまいります。

また、将来を見据え、カーボンニュートラルへの対応やワードロップ対策、DXの推進などの中長期的な課題についても積極的にチャレンジしながら、「活力があり県民が日本一幸せな県」の実現を目指し、全力で取り組んでまいりますので、なお一層のご支援、ご協力を願い申し上げます。

結びに、皆様にとりまして、本年が実り多き素晴らしい一年となりますことを心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

寄 稿

全ての団塊世代が後期高齢者となる2025年が目前です。新年にあたり、これから介護予防、介護のあり方等について、(一社)茨城県福祉サービス振興会会員である(株)ケアファクトリー代表取締役能本守康氏、(有)ロイエル商会代表取締役社長上野義哉氏、そして腰痛予防モデル施設として腰痛予防対策に取り組んでいる特別養護老人ホームサン豊浦の施設長森山俊徳氏から寄稿をいただきました。ご紹介します。

これからの介護、介護予防と  
介護実習・普及センターの役割

(株)ケアファクトリー 代表取締役 能本 守康

今日、人生100年時代と言われています。平均寿命で見ると、男性が81・64歳、女性が87・74歳ですか  
ら、全ての人が100歳まで生きるとは限りませんが、平均寿命が年々伸びていることは事実です。肝心なことは、100歳までどう生きるかです。

理想はNPK（エンピングロフ）です。しかし一方ではNNK（ネンネンコロフ）になる人も相当数います。もちろん好きで寝たきりになるわけではありませんが、どちらかと言つて、NPKの方が多いのです。

り摑つて、日々の生活の中に運動（散歩など）を習慣化し、家族以外の人と接する機会をもつて一緒に趣味や楽しむを持つこと、または人のためになる役割を持ち続けることが重要になります。しかし、これらのことを行なう上で行なうことは、特に高齢者の場合、難しそうに思われるかもしれません。だからこそ、このような生活が古めかれたるような地域での環境づくりが重要なことともあります。すなわち介護予防施策です。

たどり要介護状態になつたとして、その状態をできるだけ悪化させないで過ごす。されば要介護状態になつないで過ごす。おぼは健康を維持する。と。このことから私たち国民の最重要課題になります。

あります。しかし、この年齢層では、高齢化による慢性的な病状が現れ、また、体力の衰弱によって活動量が減少するため、食事の量も減少する傾向があります。しかし、高齢者の中には、依然として元気で活動的である者もいます。このように、高齢者の食事は、年齢による個々の身体状態や生活環境によって大きく異なります。

現在年金や医療介護などの社会保障給付費は年間一三〇兆円に迫る額であります。その中で介護保険の給付費は年間約一兆円です。これが年々増加傾向にあります。この財源は国民が負担する保険料と税です。できれば私たちの負担をあまり増やしたくはありません。そのためにも、病気や要介護状態になりずに健康で暮りたいのです。これは幸せな生活が送れ、社会保障の負担も軽減されることができるのです。

「福祉機器等の展示・介護相談体制を整備し福祉機器等を普及する」にとですが、30年経った現在、当初の目的は果たしたとみてよこと感じます。これからは、介護予防や重度化防止、たとえ要介護になつても自分らしく生活を継続できるための自立支援に特化した役割を担つべきではなうじょつか。変わりゆく時代に対応した仕組みに変えていく。介護実習・普及センターは今、そんな状況にあると思ひます。

# 進化する福祉機器～見守り機器 リアルタイムモニター～

有限会社 ロイエル商会 代表取締役社長 上野 義哉

新年明けましておめでたございます。皆さまにおかれましては、輝かしい新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

さて、2025年には、総人口の4人に1人が75歳以上になる超高齢化社会を迎へ、社会保障費の増大、労働力人口の減少、中でも介護人材不足は深刻で必要とされる245万人に対して210万人程度しか確保できず介護難民が大幅に増えていき、さらに高齢者の5人に1人が認知症になるとと言われています。こういった状況下において福祉用具の果たす役割が大きくなっています。

そんな中で導入事例が増えている福祉用具を紹介いたします。見守り機器といわれる商品群になります。従来の起き上がりや離床を報知するだけのセンサーではなく、そういう機能に加え脈拍、呼吸数、睡眠状態をリアルタイムに検知しパソコンの画面やタブレット、スマートホンでも確認できるようにになっており、そのデータを分析することで、生活リズムや異常をある程度把握でき施設入居者の個別ケアに活用できます。また入居者の居室での様子がわかることで介護職員の精神的肉体的負担の軽減にもつながり、さらにナース

コール、介護記録ソフトと連携することで記録として残り事務負担の軽減につながり入居者と向き合う時間が増えるという効果も期待できるものです。居室内にカメラを設置し運動する事で詳細に



**腰痛予防の取り組みへの経緯**  
私たちの施設では「おむつゼロ」を目指に取り組んでいます。「どのような状態の利用者でもトイレに座れるようにしたい」という思いから、立ち上がりが難しい方に対しても人力による2人介助で行っていました。その結果、職員の腰痛発生や利用者の苦痛、受傷に繋がっていました。状況を変えていこうと腰痛予防委員会を立ち上げ始めた頃、茨城県福祉サービス振興会からの声掛けもあり、腰痛予防の取り組みを行ってになりました。

## 腰痛予防取り組みの効果

福祉用具を使用することで、一人介助で対応できるようになります。職員の介護負担が軽減しています。利用者は、無理に抱え上げられる苦痛が軽減、受傷事故を減らすことができました。今後も腰痛予防の取り組みを継続し、利用者が安全で安心できる生活環境を提供、職員がいつまでも働き続けられる職場づくりをしていきたいです。

## 無理に抱え上げない介護～利用者と職員ともに笑顔になるために～

社会福祉法人 日立高寿園  
特別養護老人ホーム サン豊浦  
施設長 森山 俊徳

### 現場職員の声

良いこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉用具があることで腰痛予防になり、長く勤められる。また、腰痛での休みが減った。</li> <li>・腰痛が少なくなったことで精神的に楽になり、仕事に集中できるようになった。</li> <li>・福祉用具があるとトイレ介助がやすくなった。</li> <li>・利用者の負担軽減、安全に繋がっている。</li> <li>・利用者の残存能力を引き出すケアを意識するようになった。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導できる職員が少なく、浸透しきれていない。</li> <li>・福祉用具対象者がいないと使い方を忘れてしまう。そんな中、不適切に使用するとヒヤリハットに繋がる。</li> <li>・様々は福祉用具があるので、どのような人に何を選択していいか理解できていない。</li> <li>・手間、時間がかかるので結局人力で行ってしまう。</li> <li>・忙しいと腰痛より業務を優先してしまう。</li> </ul>

#### 腰痛予防の取り組みをする前 腰痛は職業病で仕方ないとthought



#### 腰痛予防の取り組みをした後 腰痛はケアの方法で予防できる



## 腰痛予防の取り組みへの経緯

私たちの施設では「おむつゼロ」を目指に取り組んでいます。「どのような状態の利用者でもトイレに座れるようにしたい」という思いから、立ち上がりが難しい方に対しても人力による2人介助で行っていました。その結果、職員の腰痛発生や利用者の苦痛、受傷に繋がっていました。

腰痛予防体操の実施③誰が見ても分かりやすい腰痛予防ポスターの掲示です。取り組みの当初は、見慣れない福祉用具や慣れない介助技術に戸惑いがあり、なかなか浸透しませんでした。外部講師による研修や施設内研修を行うことで、一部の職員から徐々に腰痛予防の大切さが理解されるようになりました。腰痛を抱えている職員からは、「福祉用具がないと人力では大変」という声も聞かれています。

**腰痛予防の取り組みへの経緯**  
腰痛予防には、主に職員の介助技術の向上と福祉用具の活用があります。施設としては、これらのことなどをどのように「職員に浸透させるか」が重要なことになります。具体的な取り組みとしては、①腰痛予防委員会の設置(各グループから職員を選出し、現場の職員が主体的に取り組めるようにした)②業務中でも短時間で行える

## 案 内

### 〈福祉用具展示ホールについて〉

福祉用具展示ホールでは、車いす、杖等の福祉用具を約370点展示をしており、実際に見て触れてお試しいただけますので、ぜひ来館ください。貸出可能なものもあります。（販売は行っていません）

・場 所 茨城県総合福祉会館2階  
・開館時間 9:00～17:00（土日祝日除く）



①頸を引いた姿勢となり、食事や服薬時の誤嚥のリスクを低減します。



②上体が起きるので、相手と目が合いやすく、コミュニケーションをとる場合に最適です。TVや本を読む時などにも活用でき、ベッド上の生活が快適になります。



右記内容についてのお問い合わせ先  
TEL 029-244-4426  
(福祉用具担当)

### 〔新展示品のご案内〕

#### e ベッド

（展示協力：株式会社ホーネンス）  
（介護保険貸与対象品）

電動ヘッドレスト機能：  
従来クッション等で行っていた角度調整が電動で操作できます。ヘッドレストは、リモコンで利用者本人も調整できます。

「特長1」 電動ヘッドレスト機能：  
従来クッション等で行っていた角度調整が電動で操作できます。ヘッドレストは、リモコンで利用者本人も調整できます。  
「特長2」 業界最高の67.5°のベッド高となるため、介助者がベッド上でオムツ交換、清拭等を行う際の負担を軽減し、腰痛予防につながります。

### 〔特設コーナー展示〕

特設コーナーでは、田替わりでおスマスメドウ「じこをつかむ介護職員研修 施設内接遇マナー」

### 〔おスマスメドウ「じこをつかむ介護職員研修 施設内接遇マナー」（32分）〕

ドリマ仕立ての構成で、大変わかりやすい内容です。介護施設の新人さん教育の際にご利用されとはいいかがでしょうか。

「介護保険法」における指定福祉用具貸与、または販売する事業所に從事する「福祉用具専門相談員」の養成を目的に開催します。福祉の業務に携わっている方、福祉用具に関心ある方等、どなたでも受講することができます。

#### ・開催日

第一回 令和4年5月12日～15日、  
(試験日6月11日)  
第二回 令和4年11月10日～13日、  
12月9日～11日  
(試験日12月17日)

\* 詳細は当該ホームページ、またはお問い合わせください。

### 〔貸出ロボットについて〕

介護技術関連のロボット、本の無料貸出を行っています。

・貸出条件  
①お一人様一回3点まで  
②貸出期間 2週間（延長可）③送料負担で送付可能

場所：茨城県総合福祉会館 1階  
1月 歩行補助杖  
2月 ポータブルトイレ  
(写真は過去のものですが)  
※協力：日本福祉用具供給協会茨城支部

### 〔令和4年度福祉用具専門相談員指定講習会について〕

### 〔令和4年度福祉用具専門相談員指定講習会について〕

（写真は過去のものですが）